

令和6年度全国学力・学習状況調査 結果概要

1. 教科に関する調査結果の概要

令和6年4月18日(木)、6年生で行った令和6年度全国学力・学習状況調査の結果及び分析、今後の取り組みについてについてお知らせします。

まず、結果について概要を説明します。平均正答率の大阪府との比較・全国との比較については、以下のとおりです。

平均正答率 大阪府・全国との比較

	国語	算数
本校	55%	48%
大阪府	66%	63%
全国	67.7%	63.4%

[1] 成果と課題

(1) 国語

優れていたこと

- 文の中における主語と述語との関係をとらえることができる。
- 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。

課題が見られたこと

- 話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

(2) 算数

優れていたこと

- 数量の関係を、□を用いた式に表すことができる。
- 除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している。

課題が見られたこと

- 直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している。
- 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる。

[2]結果の分析及び課題に対する方向性と取り組み

(1)国語

平均正答率(%)

	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	言葉の特徴や 使い方に関する 事項	情報の扱い方 に関する事項	我が国の言語文 化に関する事項
本 校	48.6	54.9	56.3	51.6	78.7	59.0
大阪府	57.3	65.9	69.0	63.4	85.5	72.6
全 国	59.8	68.4	70.7	64.4	86.9	74.6

国語の平均正答率は、全体的に大阪府、全国を下回っています。

課題としては漢字の正答率が低かったことや、長文を読み切ることができず、内容を理解できないため解答につながらなかったことがあげられます。

今後の取り組みとして漢字や言葉の指導を丁寧に行います。漢字は、学期末に全校で行っている「漢字まとめテスト」に向けて丁寧な字で書くように意識づけ、確実に力を付けるためにどのように取り組んでいけばよいか個に応じた指導を行っていきます。

また、パソコンを使った学習が増える中、国語辞典や漢字辞典を使って調べる活動も多く取り入れ、辞書をいつでも手元におき調べられる環境を整えていき語彙力をつけていきます。

国語の読み取りで、内容や構成など大枠をとらえる活動と、登場人物の様子や表現の仕方など細部を読み取る活動を子どもに意識させて取り組みます。

文を読む力をつけるために、読書をする時間を確保するだけでなく時間があれば読書をする習慣が身につくようにしていきます。

(2)算数

平均正答率(%)

	数と計算	図形	変化と関係	データの活用
本 校	53.6	45.9	35.5	47.5
大阪府	65.3	65.2	50.9	60.9
全 国	66.0	66.3	51.7	61.8

算数の平均正答率は、全体的に大阪府・全国を下回っています。

課題として、計算はできていても小数の処理や式の変形ができていないため点数につながらなかった子どもが多かったです。また、図形の定義や公式など算数の用語をしっかりと理解していないため、何を問われているのか理解できなかつたり、説明の仕方がわからなかつたりしたと考えられます。

そこで今後の取り組みとして計算力、定義や公式など、基礎の力をしっかりとつけるために、前学年までの計算問題や復習をする時間(計算タイム)を設定し、いつでも使えるようにしていきます。また、日々の宿題や問題の間違い直しを最後までやらせきることで、できることを増やし最後まであきらめない姿勢を身につけていきます。さらに授業中に、自分の考えを書くだけでなく、友だちの考えを説明することや、友だちの考えを使って問題を解く活動も取り入れていきます。

今年度は校内研修の研究主題を「自分の考えを伝え、学び合う子どもの育成 ～考えを伝えることが楽しい算数の授業をめざして～」とし、元府算研会長 川上真次先生を講師にお招きし、「考えることが楽しい」「みんなと話し合っって新しいことを見つけることが楽しい」という授業をめざして研究を進めています。

このような算数の研究を通して全教科において共通する「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう力」を子どもたちがバランスよく身につけることができるように取り組んでまいります。

2, 生活習慣や学習習慣等に関する調査結果について

今回の調査では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という児童の割合が「そう思う」が71.2%「どちらかと言えば、そう思う」が20.3%「どちらかといえばそう思わない」は5.1%「そう思わない」が3.4%でした。いじめは重大な人権侵害事象であり「そう思う」児童の割合100%をめざす必要があります。子どもたち自身が「いじめをなくすためにできること」について考える活動を行うことで相手の気持ちを考え、自分の人間性を深めることができる取り組みを進めてまいります。

「自分には、良いところがあると思う」と答えた児童は86.4%で府84%、全国83.9%を上回りました。自己肯定感・自己有用感を高めるための取り組みとして「もちあじ」について全校あげて取り組んできた効果が表れてきたと考えられます。今後も継続して取り組んでいきます。

「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた児童は94.9%で府91.5%、全国92.7%を上回っています。たてわり活動や幼稚園保育所との交流、藤北フェスタなど学校だけでなくいろいろな立場の人との交流が昨年度より取り組むことができるようになってきた成果であると捉えています。友だちや異年齢の子どもたち、地域の方々など様々な立場の人とのかかわりの中で、他者とのかかわり方を考える機会を増やす取り組みを行ってまいります。

生活面においては「朝食を毎日食べている」という児童は72.9%（府81.2% 国83.4%）となり、府や国より10%ほど下回る結果となりました。規則正しい生活を心がけ、「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣を身につけるために、保健の授業、養護教諭からの保健だより、各学年の発達段階に合わせた栄養教諭による食育の授業を行うことで、子どもたちの意識を高めていきます。ご家庭でのご協力よろしく申し上げます。

また「普段1日当たり、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴など（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームを除く）を4時間以上している」児童が27.1%（府16.6% 国11.9%）で府や全国を上回っています。また、「普段1日当たりテレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）を4時間以上している」児童が42.4%（府23% 国17.7%）で府や全国を大きく上回る結果になりました。そのため「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問に「全くしない」児童が40.7%（府25% 国25.6%）につながっていると考えられます。

生活においては、学校での取り組みだけでなく各ご家庭の協力が必要となります。東北大学と仙台市教育委員会の研究によると、家庭学習を2時間以上してスマホ使用が1時間より少ない子は学習定着率が最もよく、2時間以上勉強してスマホを4時間以上使う子は、家庭学習を30分もしないがスマホを全くしない子より学習定着率が低くなった、との結果が出ています。

この結果からもわかるように子どもたちの学力向上のためにはタブレットやゲームとうまく付き合っていく必要性があります。学校でも講師を招いて子どもたちへ話をしていただき、子どもたち自身にどう付き合っていくか考える機会を設けていますが、ご家庭でも使い方について話し合ってください、子どもたちの健やかな成長につなげていただきますようお願いいたします。

一人ひとりの子どもたちがお互いの良いところを認め合い、高め合うことで学校での居場所がある「居心地のよい学校づくり」をめざして全教職員で取り組んで参ります。子どもたちが社会で生きていくための力をつけていくためには、より一層家庭と学校との連携を深める必要があります。今後も引き続きご家庭でのご理解とご協力をよろしく申し上げます。